



もともとこのまちが嫌いだったけど、実際に長万部町のために一生懸命話している姿を見て、自分でもできることはないか、と思うようになりました。よりよいプロジェクトにしたいです。

長万部高校1年生

まちづくりは役場の人たち、公務員が行うものではなく、地域全体が一人一人が参加して自分の意見を言うて行うことができるまちづくりを行うことで、その地域が活性化されていることがよく分かりました。

正直、自分たちがまちづくりなんてできるわけがない。と思っていたけれど、自分事として捉えることで身近に感じる事が出来たし、小さなことから出来そうな気がしてきました。あと、まちづくりといえば「観光」というイメージでしたが、様々な視点のまちづくりがあることに驚きました。もっともっと視野を広げたいです。

何より、普段の授業や学校生活にもそのヒントが転がっているような気がしてきました。

授業って大事ですね(笑)

長万部高校1年生

見ている人たちから強めの質問もけっこうされていて、小学生や中学生よりもレベルの高いものを求められているのだなと思った

長万部中学校2年生

- ・時間をかけて練習してきたことが伝わってきました。高一の成長に感動しました。

- ・質問に対して臨機応変に答えるのは大人でも難しいことだと思うので、かなり頑張っていたと感じた

- ・小学生は緊張しながらも、一生懸命発表しようと頑張っていた

長万部中学校 教諭

小中高の発表、よかったと思います。小学校として参加させていただき、ありがたかったです。この先もずっと続いていくように改善していけたらいいですね。

長万部小学校 教諭

高校生ってあんなにしっかり話せるんだね～。驚いた。私たちが高校生だった頃は考えられない！大人の質問とかにもね、自分たちの言葉でしっかり話しているのもびっくりした～！高校のイメージが変わったもん。

長万部町飲食店の方

小中学生どちらも、一生懸命発表していました。
小学生は長万部の未来を語る姿はとてもいきいき
していた。中学生は実体験を明確に伝え、堂々とし
ていた。小学校の先生、中学校の先生どちらもきめ
細かく児童・生徒を導いている感じがしました。これ
からも連携を深めていきたいですね

長万部高校 教諭

2(4) ①総合的な学習(探究)の時間(小中高合同発表会)

児童・生徒にとっては、先を見通したり、今までの自分を振り返る機会となり、成長を実感できる



小



中

異校種の教員が異校種の児童・生徒を評価することができ、児童・生徒にとっては自己肯定感が高まる



高

教員が自校で育成した児童・生徒の先の姿を見ることができ、成果・課題を見出す一つのきっかけとなる

2(4) 2年次の取組②③

資料16ページ～19ページ

- ① まちづくりをテーマとした探究的な学習の時間の小中連携
→11月15日(木)小中高合同「ふなばし」発表会開催 長万部高校にて
- ② **学校グランドデザイン**の作成
→身に付けさせたい資質・能力を「〇〇ができる」という形で明確化
- ③ 「〇〇ができる」の**ルーブリック化(中・高で作成)**
→ルーブリック自己評価からチャートグラフ化
- ④ 「キャリア・パスポート」を作成し、中・高で持ち上げる
→教科についての項目も入れ、探究的活動等の記録も残していきたい
- ⑤ 小中高の教員を4つのテーマ別に分けて、校種間連携を前提とした研究協議会を開催(年3回)

2(4) 2年次の取組④

- ① まちづくりをテーマとしたキャリア教育の視点での総合的な学習の時間の小中高12年間のカリキュラム作成
→11月15日(木)小中高合同「ふるさと学」発表会開催 長万部高校にて
- ② 学校グランドデザインの作成
→身に付けさせる
- ③ 「〇〇がてこ」
→ルーブリック自己評価からアポートグラフ化
- ④ **「キャリア・パスポート」**を作成し、中・高で持ち上げる
→教科についての項目も入れ、探究的活動等の記録も残していきたい
- ⑤ 小中高の教員を4つのテーマ別に分けて、校種間連携を前提とした研究協議会を開催(年3回)

資料20ページ～26ページ

2(4) 2年次の取組⑤

- ① まちづくりをテーマとしたキャリア教育の視点での総合的な学習の時間の小中高12年間のカリキュラム作成
→11月15日(木)小中高合同「ふるさと学」発表会開催 長万部高校にて
- ② 学校グランドデザインの作成
→身に付けさせたい資質・能力を「〇〇ができる」という形で明確化
- ③ 「〇〇ができる」のルーブリック化
→ルーブリック自己評価からチャートグラフ化
- ④ 「キャリア・パスポート」を作成し、中・高で持ち上げる
→教科についての項目も入れ、探究的活動等の記録も残していきたい
- ⑤ **小中高の教員**を4つのテーマ別に分けて、**校種間連携**を前提とした**研究協議会**を開催(年3回)

2(4) 2年次の取組⑤

町研サークル

小中高教員の交流の場→実務的な校種間連携

キャリア

学力向上

生徒指導

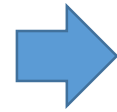
特別支援



2(5) 2年次(中間)までの成果と課題

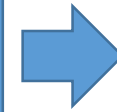
4月

事前アンケート



9月

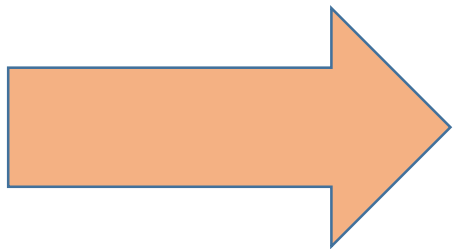
中間アンケート



1月

事後アンケート

PDCA × 3を活用

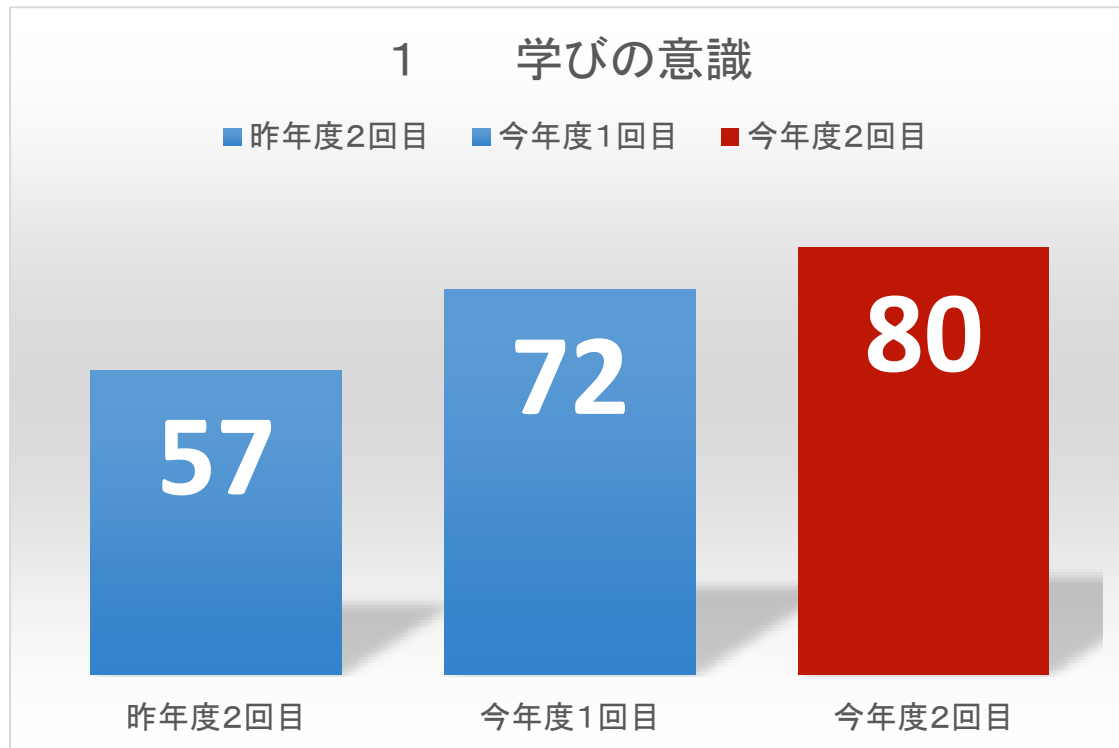


- こまめにチェックすることができる
- 常に目的を意識することができる
- タイムリーな生徒及び教員の意識調査をすることができる

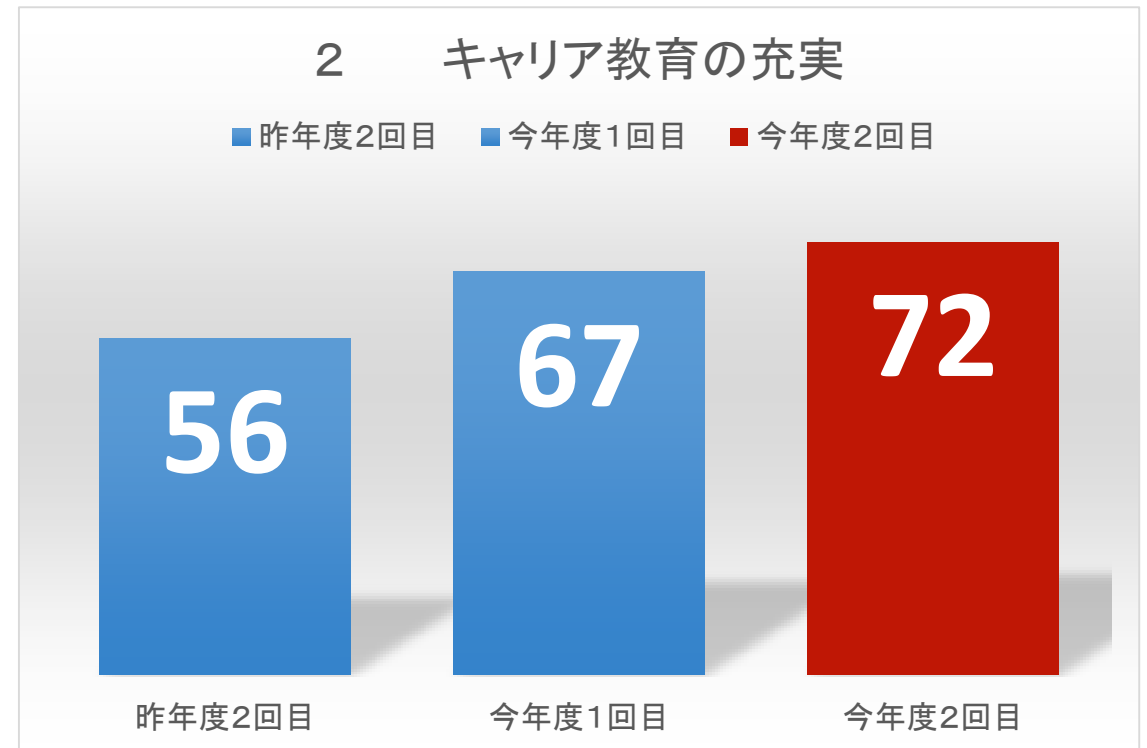
2(5) 2年次までの成果

【生徒向けアンケート全体の傾向（%表示）】

1 学びの意識



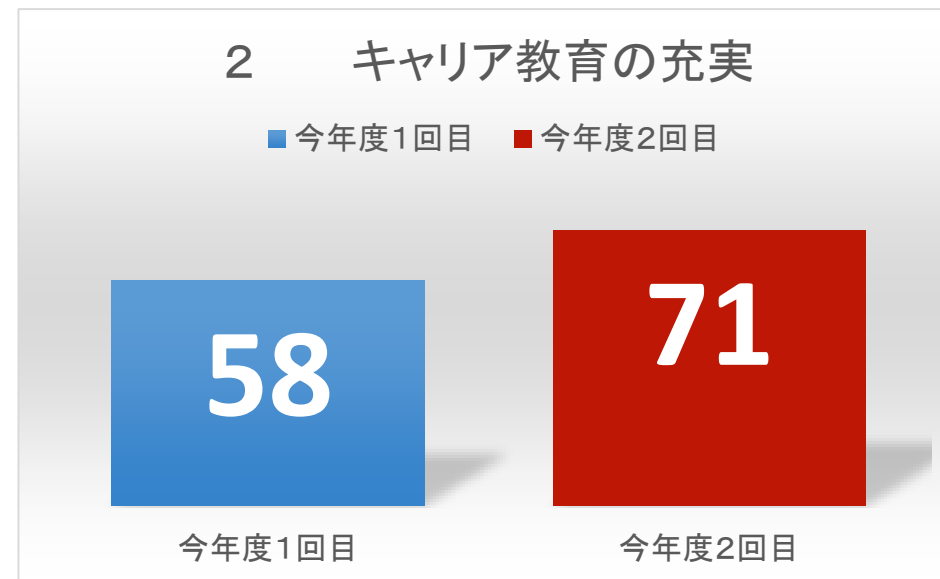
2 キャリア教育の充実



2(5) 2年次までの成果

【生徒向けアンケート 学年別の特徴】

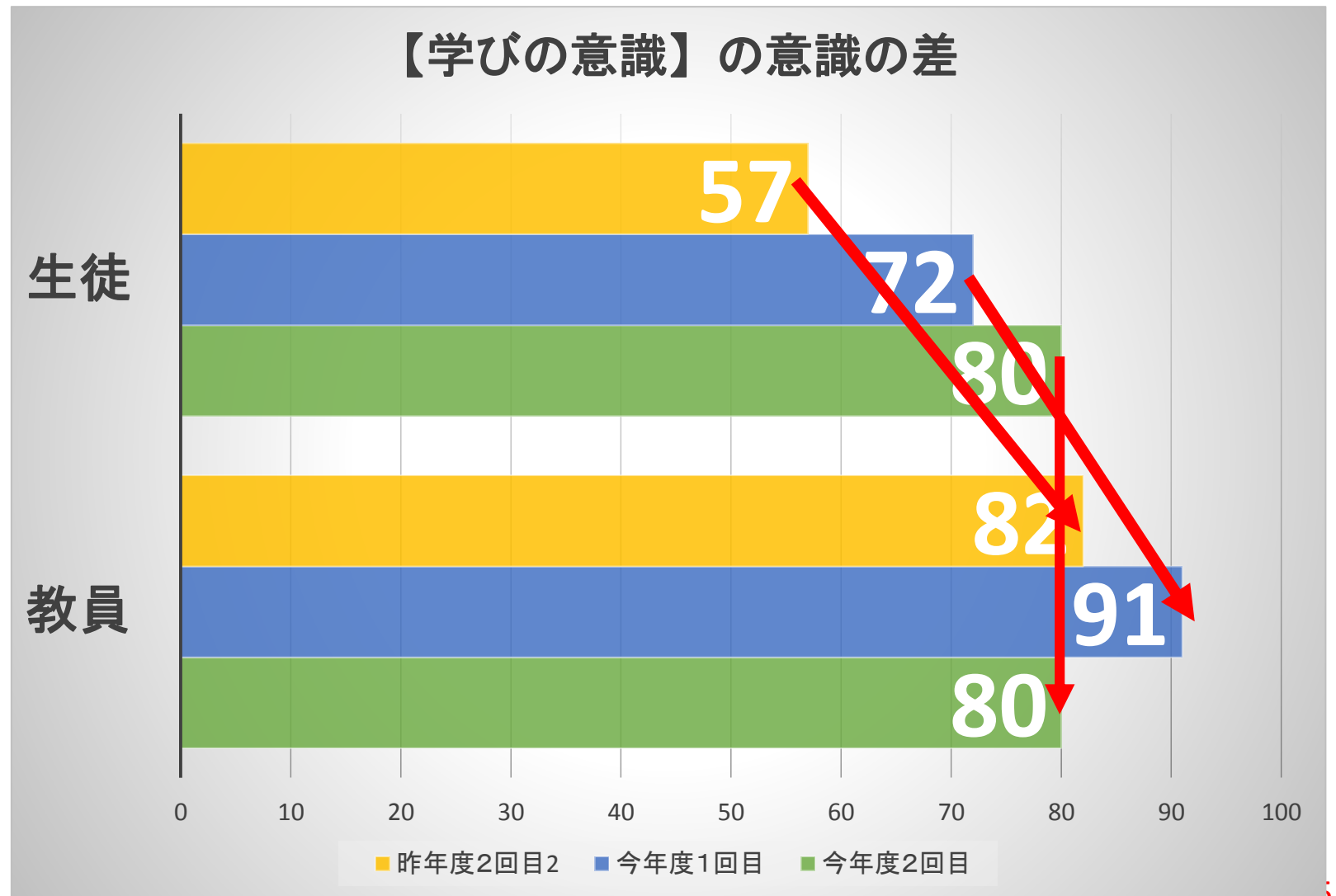
- ①2年生の【1 学びの意識】・【3 地域連携・協働】・【4 主体的・対話的で深い学び】に対する肯定的意見が**100%**
- ②1年生の【2 キャリア教育の充実】が1回目と比較すると大幅な伸び



2(5) 2年次までの成果

【教員向けアンケート】

①【学びの意識】について教員と生徒の意識の差がなくなってきた



【教員向けアンケート】

- ② 【3 キャリア教育の充実】
 - 【4 地域連携・協働】
 - 【9 本事業と地域社会の創造】
- の項目で肯定的意見**100%**

2(5) 2年次で見えてきた課題

《生徒向けアンケートより》

【2 キャリア教育の充実】は3学年とも70%にとどまっている。→1年生だけでなく、3年間を見通した系統的なまちづくりプロジェクトへの改善が必要

《教員向けアンケートより》

【7 カリキュラム・マネジメント】の肯定的意見が50%と最も低い→総合的な探究の時間・特別活動を要としたキャリアの視点をもった教育課程に抜本的に変える(～人づくりをまちづくりに～を念頭に置いた校種間連携が大前提)

2(5) 2年次で見えてきた課題(小中高で)

①系統的な「総合的な学習の時間」の内容配置

※高校では「総合的な探究の時間」に対応する

②小中高合同発表会のさらなる内容充実

③キャリアパスポートの内容の見直し

3 縦の連携 ～ ここが大変！4つの壁

- ① 学校文化そのものの壁
- ② 校種間文化の違いによる壁
- ③ 継続の壁
- ④ 人・物・お金の壁

壁を打ち破るため

→ **カリキュラム・マネジメントの重要性**

4 まとめ(校種間連携のキーポイント)

(1)なぜ校種間連携を行うのか？(目的の明確化)

→“校種間連携ありき”で行うと、形式的なもの・負担感しか残らない！？(各取組はあくまでも手段)

(2)どのように校種間連携を行うのか(組織的に行うために)

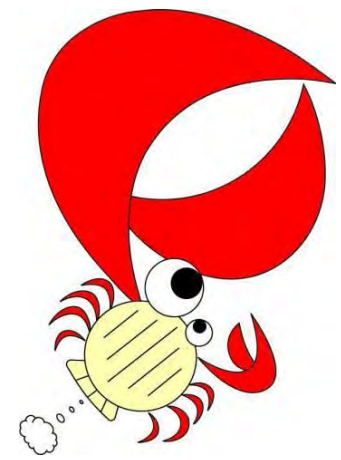
→教育委員会、管理職、各学校教職員等を含めた関係機関を組織し、「系統的に」「整理しながら」進める必要あり



持続可能なまちづくり

①キャリア形成そのもの(自己の在り方・生き方を考える)

②学校での学びが社会で生きることとつながる → 縦につながる共通テーマ



ご清聴ありがとうございました！！

